

エンクレーブにおける中国系移民コミュニティの再編成
——起業家集団の同郷と同胞意識の役割——
Reorganization of Chinese Immigrant Communities in the Enclave: Entrepreneurs' Group
Consciousness and the Role of Hometown and Ethnic Solidarity

欒孟聡 (神戸大学大学院 人文学研究科)
MENGCONG LUAN (Graduate School of Humanities Kobe University)

キーワード：中国系新移民、エンクレーブ、移民コミュニティ、同郷会、起業家

1. 研究背景

日本における初期の中国系移民は血縁、姻戚関係、そして職業や出身地に基づく「三縁」によって結びついており、これが早期の組織化と相互支援の基盤を形成した。日本の法的枠組みの変化と中国の経済的・政治的動向の変容により、新たな移民層が出現した。これら新移民は高学歴であり、伝統的な中華街に留まる者もいれば、新たなエリアに「ニューチャイナタウン」を創出する者もいた(山下、2010,2023)。既存の中華街は、観光地化や地域社会との連携を通じて再編成され、文化的資源の活用が進んでいる(王、2018;川本、2018)。しかし、中国系移民にとっての集住地は、「避難所、住宅地、経済活動の場、伝統文化を実践する場」としての意義を持ちながらも、同時に受け入れ国の社会では不衛生な地域や犯罪多発地域といった外部から作られたネガティブなイメージで見られがちである(Chow、1977; Wong、1982; Laguerre、2000)。本発表は、フィールドワークを通じて大阪の中心都市部における中国系移民のエスニックコミュニティの形成に関する詳細な分析を提供することを目指している。

2. 研究目的

Qadeer&Kumar (2006)によれば、隣接するマイノリティの居住地だけではエンクレーブを構築できない。正式な、または非正式なコミュニティやシンボルの登場が、その地域をエスニックコミュニティに変え、最終的にエンクレーブへと変容させる。本研究では、近年、発展している商業機能を中心とした中国系新移民のエンクレーブにおいて、「旧三縁」(血縁、地縁、業縁)が依然として重要な位置を占めているのかどうかを確かめることに注力する。また、これらの旧来の縁がどのようにして影響力を体現し、限られた地理的空間内でエスニックコミュニティの形成や再形成にどのような役割を果たしているのかを明らかにすることを目的としている。

3. 研究方法

大阪府中央区は、大阪府の中核エリアとして、利便性の高い商業施設のおかげで常に高い人の流れを維持している。近年、新華人の集中エリアは主に日本橋東、島の内およびその周辺に分布している。2021年10月より、大阪府中央区島之内地域でのフィールドワークを開始した。2023年10月、H省出身者による同郷会の設立が契機となり、設立に向けた準備会議、設立大会の手配、他の同郷会代表者との連携、宣伝活動などに携わり、ボランティアとして理事役を務めた。H省同郷会は非営利の一般社団法人として運営されており、現在では223名の会員が在籍している。理事会には14名がおり、その内訳は会長1名、副会長3名、理事10名で、8名の女性と6名の男性から成り立っている。

4. H省同郷会4人の語り

A (1988年生まれ、修士課程修了)

Aは中国の大学卒業後、日本での修士課程を経てIT企業に就職し、後に中国からの観光客の「爆買い」ブームに乗じて、貿易会社を立ち上げ、その後はメディア会社へと転身した。2013年からH省同郷会東京本部の設立及び発展に理事として参画していた。「関西地区における正式な同郷会の設立が進まず、同郷人に対する支援が不足していた」ことから、積極的に初期の準備を担うことを決意した。

B (1985 年生まれ、大学卒業)

同郷の夫と結婚して日本に渡った B は、夫の父が日本で観光ビジネスを展開しているため、日本に来て服飾会社に勤めた後、現在貿易会社を経営している。同郷会の創設者 A 氏とは 13 年前の大阪で開催された「H 省サッカークラブを支援する」のボランティア活動で知り合った。

C (1970 年生まれ、中学卒業)

中国で結婚後に離婚し、日本に来た C は、姉の日本での会社を手伝いながら育児支援を行い、アプリを通じて日本人とお見合いで再婚した。現在は海産物販売やその他の物産を取り扱うビジネスを経営しており、A、C とは同じボランティア活動で知り合った。

D (1985 年生まれ、中学卒業)

D は仲介の紹介で日本の中華料理店で働き始めたが、給料未払いの問題に直面した。困難を乗り越え、投資ビザを取得して自身の中華料理店を経営し、家族を日本に呼び寄せた。「留学生に対して優遇措置を取りつつ、同郷の人々に恥をかかせないように努めており」、同郷会の活動にも積極的に参加している。

5. 考察

エンクレーブ内の起業家たちは、商業上の必要性に基づき互いに繋がってはいるものの、単に経済利益を追求するだけでは特定の地理的空間で組織化された民族集団の形成には至りにくい。しかし、グローバル経済の発展とともに、国境を越える新移民の数が増加し、エンクレーブ内での民族教育が充実し、同民族向けの商業施設が整備され、情報と社交のネットワークが多様化してきている。これらの変化は、エンクレーブ内でのコミュニティ形成に新たな接点を提供している。

経済的資本と社会的関係資本に恵まれた起業家たちは、エリート層としてコミュニティの立ち上げや統合を担う役割を果たし、留学生、普通のサラリーマン、主婦といった、移民社会内で比較的弱い立場にある人々に、さらなるライフチャンスを提供している。これは、エンクレーブを基盤としたコミュニティが、成立初期から明瞭な階層性を帯びていることを物語っている。さらに、新移民が伝統的な「旧三縁」に頼らずに組織を築いていく過程で、「閉鎖性」の特性は弱まりつつある。しかし、「旧三縁」に根ざした信頼関係と相互支援の意識は、エンクレーブのコミュニティ再編における重要な鍵となっている。

参考文献

- 王唯, 2018, 「九州華僑ネットワークの重層性」『日本華僑社会の歴史と文化——地域の視点から——』曾士才・王唯編, 明石書店.
- 川本綾, 2012, 『移民と「エスニック文化権」の社会学——在日コリアン集住地と韓国チャイナタウンの比較分析』明石書店.
- 山下清海, 2010, 『池袋チャイナタウン——都内最大の中華街の実像に迫る』洋泉社.
- , 2023, 『華僑・華人を知るための 52 章』明石書店.
- Chow W.T., 1977, “The Reemergence of an Inner City: The Pivot of Chinese Settlement in the East Bay Region of the San Francisco Bay Area”, R E Research Associates.
- Qadeer M. A. & Kumar S., 2006, “Ethnic enclaves and social cohesion,” *Canadian Journal of Urban Research*, 15(2):1-17.
- Laguerre M.S., 2000, “The Global Ethnopolis: Chinatown, Japantown, and Manilatown in American Society”, Macmillan Press.
- Wong B.P., 1982, “Chinatown Economic Adaptation and Ethnic Identity of the Chinese”, Holt, Rinehart and Winston.